

## 第1章 姫路市バリアフリー基本構想策定・改定にあたって

### 1. 基本構想策定の背景と趣旨

本市では、高齢者、障害者などが自立した日常生活や社会生活ができる社会の実現に向け、平成5年（1993年）10月に施行された兵庫県福祉のまちづくり条例に基づき、福祉・医療施設や物販店など誰もが利用する公益施設等のバリアフリー化に努めるとともに、「JR姫路駅南側周辺」、「JR姫路駅北側周辺」など12地区を「福祉のまちづくり重点地区」として、建築物はもとより、道路、公園等を対象とした面的な整備を進め、バリアフリーのまちづくりを進めてきました。

また、国において、建築物のバリアフリー化を進めるため、平成6年（1994年）9月に「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」（以下「ハートビル法」という。）が施行され、平成12年（2000年）11月には、公共交通機関や旅客施設などのバリアフリー化を総合的かつ計画的に推進するため「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」（以下「交通バリアフリー法」という。）が施行されました。

本市では、この交通バリアフリー法に基づき、平成14年度（2002年度）に「姫路市交通バリアフリー基本構想」（以下「旧基本構想（平成14年度）」という。）を策定し、「JR姫路駅・山陽姫路駅及びその周辺」、「JR英賀保駅及びその周辺」、「JR網干駅及びその周辺」の3地区を重点整備地区としてバリアフリー化を進めてきました。

さらに、国においては、より一体的、総合的にバリアフリー化を推進するため、平成18年（2006年）12月に、ハートビル法と交通バリアフリー法を統合・拡充させた「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下「バリアフリー法」という。）が施行されました。

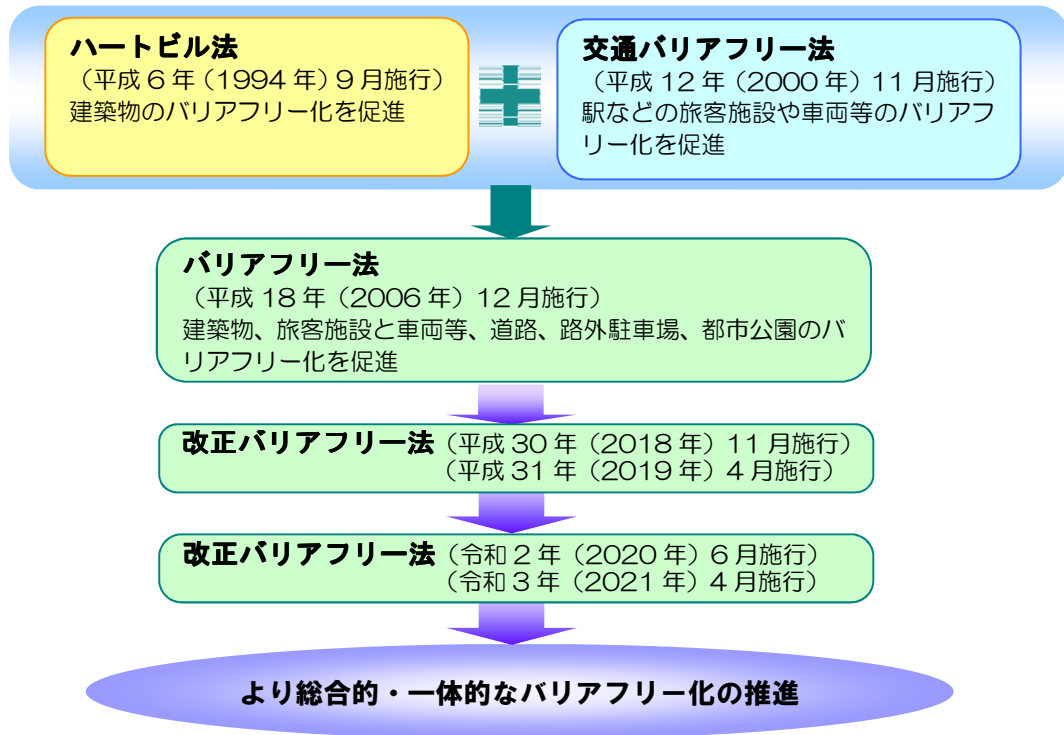
このような中、本市では、一体的、総合的なバリアフリー化をさらに推進するため、重点整備地区や整備内容などを拡充し、「姫路市バリアフリー基本構想」（以下「旧基本構想（平成22年度）」という。）を平成22年度（2010年度）に策定、平成28年度（2016年度）に一部変更し、「JR姫路駅・山陽姫路駅周辺地区」、「JR英賀保駅周辺地区」、「JR網干駅周辺地区」、「山陽電鉄白浜の宮駅周辺地区」の4地区を重点整備地区として、バリアフリー化を図ってきました。

### 2. 基本構想改定にあたって

近年では、平成30年（2018年）にバリアフリー法が一部改正施行され、高齢者、障害者等も含んだ一億総活躍社会の実現の必要性から、「共生社会の実現」「社会的障壁の除去」が明確化されるなど、共生社会の実現に向けた取組みが進められています。

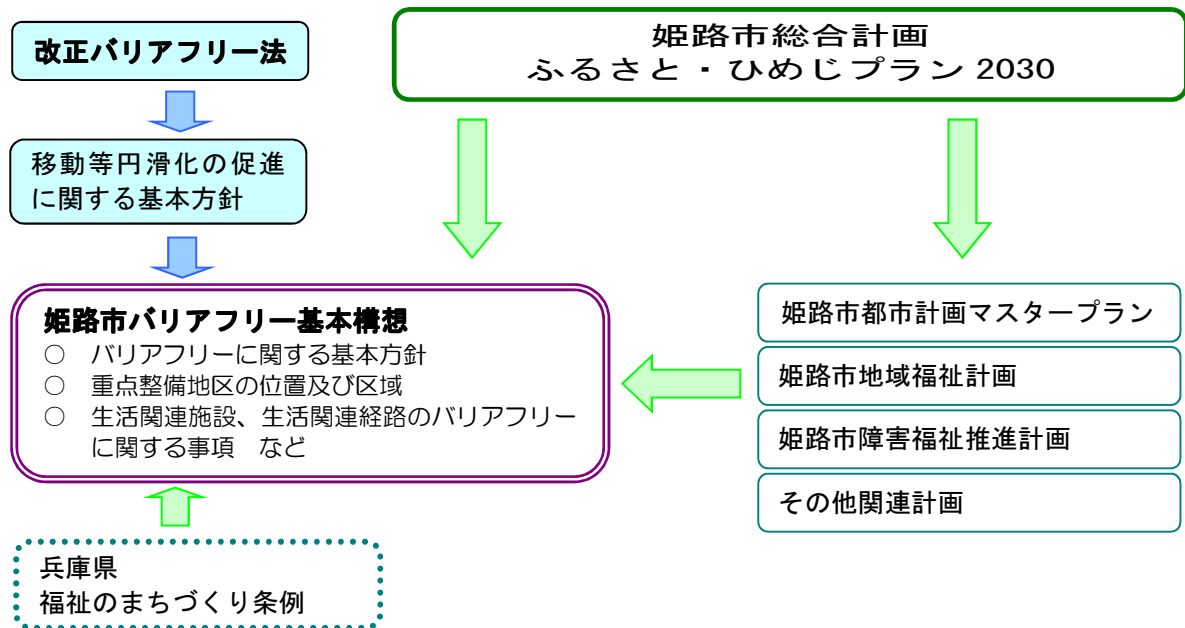
加えて、令和2年（2020年）には、平成30年（2018年）12月の「ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律」の施行や2020東京パラリンピック大会の開催を契機とした共生社会実現に向けた機運醸成等を受け、「心のバリアフリー」に係る施策などソフト対策等を強化する必要性から、更なるバリアフリー法改正が行われました（以下「改正バリアフリー法」という。）。合わせて、「移動等円滑化の促進に関する基本方針」が一部改正され、令和7年度末（2025年度末）を目標期間とする次期目標が示されました。

このような中、旧基本構想（平成22年度）策定から約10年が経過したことから、策定後の社会情勢、開発状況の変化に応じ、改正バリアフリー法や上位関連計画との整合を図りながら、旧基本構想（平成22年度）に基づく事業の評価を踏まえ、基本構想の見直しを行うこととしました。



### 3. 基本構想の位置付け

本基本構想は、改正バリアフリー法に基づき策定しました。また、姫路市の都市づくりの理念と方向を示した「姫路市総合計画 ふるさと・ひめじプラン 2030」をはじめ、「姫路市地域福祉計画」及び「姫路市障害福祉推進計画」等の上位・関連計画と整合を図り策定しました。



### 4. 基本構想の目標年次

本基本構想の整備目標年次は令和7年度（2025年度）とします。

## 5. 姫路市の現況

### (1) 人口と高齢者数の推移

現在の姫路市市域（旧姫路市、家島町、夢前町、香寺町、安富町）の人口は、昭和60年（1985年）の国勢調査で50万人を超え、平成22年（2010年）の53万6千人をピークに減少し、令和2年（2020年）現在で約53万人となっています。

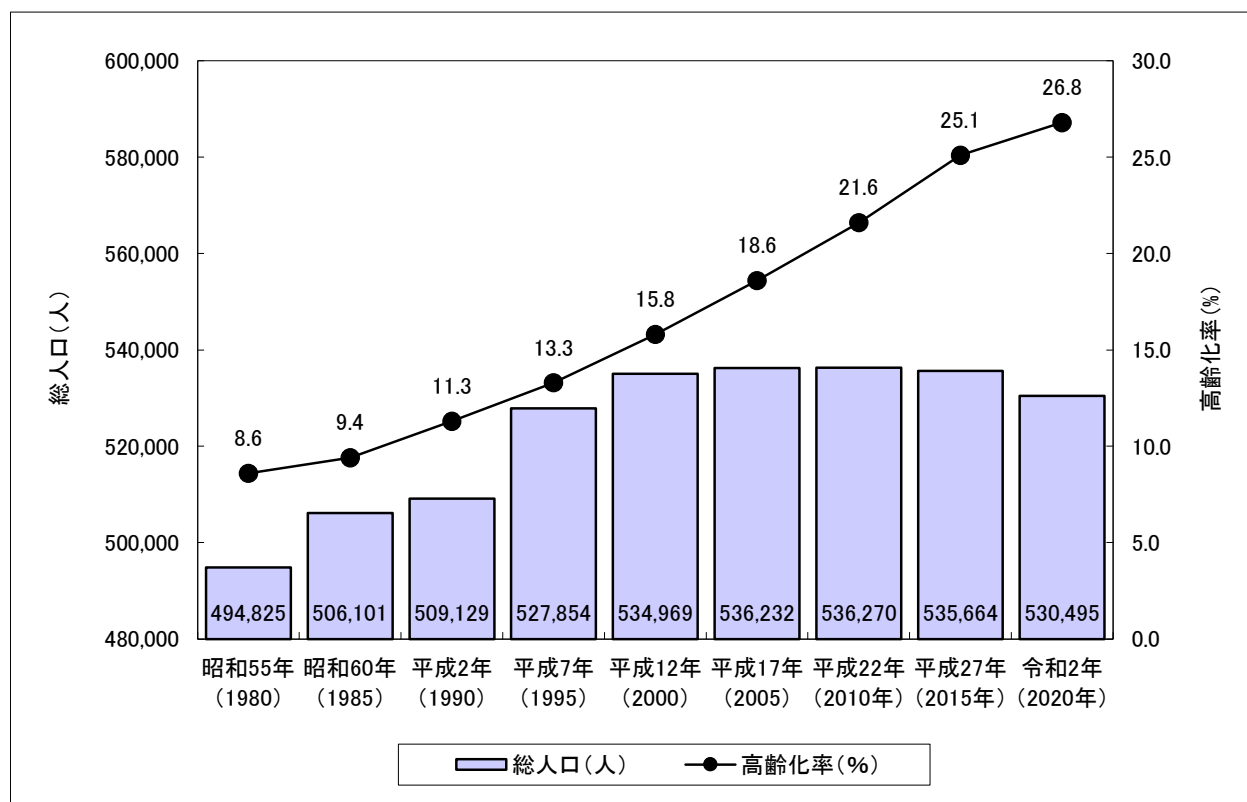
また、65歳以上人口が総人口に占める割合（高齢化率）は、平成2年（1990年）に10%を超え、令和2年（2020年）には26.8%となっています。高齢化率は全国平均（28.6%（令和2年））より低いものの、高齢化の進行への対応が課題となっています。

総人口と高齢者（65歳以上）人口推移

	昭和55年 (1980年)	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
総人口 (人)	494,825	506,101	509,129	527,854	534,969	536,232	536,270	535,664	530,495
65歳以上人口 (人)	42,766	47,634	57,460	70,384	84,387	99,606	115,703	134,671	142,411
高齢化率 (%)	8.6	9.4	11.3	13.3	15.8	18.6	21.6	25.1	26.8

注：昭和55年から平成17年は、旧姫路市、家島町、夢前町、香寺町、安富町の合計値とした

資料：各年国勢調査



(2) 障害者数

姫路市の障害者手帳等所持者数は、令和3年4月1日現在で延べ30,561人となっています。

障害者手帳等所持者数

区分	人数(人)
身体障害	21,210
知的障害	5,349
精神障害	4,002
延べ人数	30,561

身体障害者 障害別内訳

区分	人数(人)
視覚障害	1,197
聴覚・平衡機能障害	1,714
音声・言語・そしゃく機能障害	244
肢体不自由	12,455
内部障害	5,600
延べ人数	21,210

資料：令和3年度姫路市の健康福祉（令和3年4月1日現在）

(3) 公共交通機関

① 鉄道

姫路市内では、JR山陽新幹線及びJR山陽本線が東西方向をつなぎ、北部方向にはJR姫新線とJR播但線が走っています。また、山陽電鉄が山陽姫路駅を起点に、飾磨駅経由で網干方面と阪神電鉄・阪急電鉄との相互乗り入れにより神戸・大阪方面へ延びています。

平成28年（2016年）にJR東姫路駅が開業し、姫路市内の鉄道駅は、JR西日本は16駅、山陽電鉄は15駅となりました。各駅の乗降客数は次の通りです。

鉄道駅の1日平均乗降客数

(単位:人)

JR 西日本	1日平均乗降客数		
	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
姫路	103,604	103,526	76,060
東姫路	2,512	2,826	2,486
御着	5,784	5,800	4,860
ひめじ別所	3,830	3,848	3,194
英賀保	9,236	9,246	7,508
はりま勝原	10,694	11,014	9,034
網干	15,794	15,518	12,280
京口	2,196	2,244	1,912
野里	3,656	3,912	3,274
砥堀	1,334	1,432	1,182
仁豊野	2,090	2,114	1,734
香呂	3,152	3,136	2,516
溝口	3,452	3,494	2,804
播磨高岡	3,332	3,462	2,898
余部	4,508	4,456	3,574
太市	794	796	608

山陽電鉄	1日平均乗降客数		
	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
姫路	24,032	24,079	17,046
手柄	1,958	2,032	1,555
亀山	2,024	2,143	1,679
飾磨	7,737	7,752	5,921
妻鹿	2,203	2,273	1,765
白浜の宮	4,898	5,123	4,222
八家	2,386	2,366	1,874
的形	1,652	1,648	1,234
大塩	3,996	4,015	2,823
西飾磨	1,915	1,953	1,473
夢前川	1,761	1,762	1,425
広畑	1,671	1,685	1,332
天満	1,835	1,857	1,443
平松	1,124	1,112	828
網干	3,558	3,549	2,564

資料：西日本旅客鉄道(株)・山陽電気鉄道(株)



② バス

姫路市内では、神姫バスが路線バスを運行しています。

高齢化が進行する中で、市民の交通手段としてバスの役割は高まってきており、市民のニーズに対応したバス路線の再編やノンステップバスの導入によるバリアフリー化などへの取り組みが行われています。

バス車両保有状況(姫路市内分)

(単位:台)

	ノンステップバス	ワンステップバス	リフト付きバス	その他	総車両数
平成 22 年度 (2010 年度)	97	11	2	17	127
平成 23 年度 (2011 年度)	87	23	2	16	128
平成 24 年度 (2012 年度)	83	20	2	15	120
平成 25 年度 (2013 年度)	83	20	2	13	118
平成 26 年度 (2014 年度)	80	21	2	12	115
平成 27 年度 (2015 年度)	79	22	2	12	115
平成 28 年度 (2016 年度)	81	20	2	13	116
平成 29 年度 (2017 年度)	77	25	2	12	116
平成 30 年度 (2018 年度)	77	30	2	13	122
令和元年度 (2019 年度)	78	29	2	14	123
令和 2 年度 (2020 年度)	81	27	2	13	123

資料：神姫バス(株)